

〈 派 遣 報 告 書 〉

2026/2/20

報告者 石谷 祐貴

1. 大会名 第8回 全日本社会人バスケットボール選手権大会

2. 期 日 令和8年2月21日(土)～11月23日(月)

会 場 京都市体育館・島津アリーナ京都

3. 担当試合

【21日】女子1回戦

(開催県)－(北海道2)U2

【22日】男子2回戦

(近畿3)－(東海1)U2

4. ゲーム

女子1回戦：PGCはエッジの見方・次年度からのヘルプデフェンスの部分の確認・3or2・ローテーション・EOGを重点的にして頂きました。

開催県ということもあり応援が多く盛り上がったゲームになりました。入りはコンスタントに笛を入れていけたのですが後半ゲームが進むにつれて迷ってしまいクルーに助けらるケースがありました。決断の部分で白黒つけないといけないケースに判定が出来ずに終わってしまいました。

IR：3人で協力して進んでいた。開催県のゲームだからといって偏るのではなくしっかり判定が出来ていたと思います。両チームにストレスなく運営出来ていた。とコメント頂きました。

男子2回戦：PGCはキープレイヤー(外国籍選手対日本人選手のマッチアップ)・エッジの見方・ローテーションを中心にして頂きました。

ゲームとしてはクルーとしてのテンポセットがうまくいきプレイヤーもアジャストしてくれました。2Qで様相が変わりクルーとして把握出来ていない部分でインパクトが起こり苦しい時間帯もありましたが、その時間を乗り越えて後半からは決断しないといけない場面でしっかり笛が入り大きく崩れて行かず立て直せたのがよかったと思っています。

IR：2Qの苦しい時間帯での検証が必要。ローテーションを迷っているケースが2Qに

多いと思いました。何を見るためにローテーションするのかを考えてください。大きなインパクトがあった場面も説明がしっかり出来てコール・ノーコールが出来るための位置どり・ローテーションになるのでただボールサイド2にこだわることはないようにしてみてください。とコメント頂きました。

5. 全体を通して

今回、県外での全国大会に初めて参加させて頂きました。県内での全国大会や九州ブロックでの派遣とはまた違う他ブロックの雰囲気を楽しむことができとても刺激になりました。

初日のゲームは緊張でいつもの自分を出せなかったのが悔しいですがクルーの方々に助けられながらなんとかやり切ることができました。2日目は雰囲気にも慣れてきたのもあり落ち着いてできました。

今回、選手・コーチとのコミュニケーションがスムーズにできたことで皆がプレーに集中しタフでクリーンな周りが観ていて面白いゲームがクルーと協力して運営できたかなと思います。しかしながらクルーでというよりクルーに引っ張っていただいたという印象が強いゲームではありました。そこを【クルーに】ではなく【クルーで】になれるように今後、さらにゲームに関わるを意識してコートに立たないと感じました。

また、レフェリングをする上で何を捉えたいからそのポジションアジャストをするであったり、そののマッチアップを捉えたいからローテーションするなどより良い位置でプレーを長くみることができていなかったと反省しています。捉えてたいものを追求してレフェリングできるように勤めたていきたいと感じました。

最後に、派遣をして頂いた鹿児島県バスケットボール協会をはじめ、原田審判長並び、各カテゴリー長、大会の運営にご尽力いただきました京都府の皆様へ深く感謝申し上げます。今回の経験を鹿児島県に還元できるよう勤めてまいります。今後とも宜しく願い致します。

以上、ご報告とさせていただきます。